

# 公益社団法人 日本船舶海洋工学会

## 平成27年度（第120期）事業報告

（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

日本船舶海洋工学会は、船舶及び海洋工学に関する学術技芸を考究し、船舶の性能及び安全性向上、並びに、海洋の開発利用及び環境保全を図ることにより、我が国の発展に寄与すると共に、我が国の国民生活の向上を図ることを目的としている。この目的を達成するため、会員を含む広く一般国民を対象とした公益目的事業として、調査研究事業ならびに啓発広報事業を行った。平成27年度は例年の事業に加えて、研究委員会活動に予算を重点配賦したほか、数々の国際会議に参画した。また創立120周年記念事業の準備を実行委員会を組織して行った。実施された事業について、事業区分ごとに以下に示す。

### I 調査研究事業

#### 【1】学術講演会

##### (1) 春季講演会

平成27年5月25日、26日、神戸国際会議場において、平成27年春季講演会を開催した。約400名の参加があり、一般講演が122件、オーガナイズド・セッション(OS)が3テーマ(30件)の、合計152件の講演が行われた。また、日本船舶海洋工学会賞(論文賞)を受賞した4件の受賞記念講演が行われたほか、若手優秀講演賞へ23件の応募があり、3件の若手優秀講演賞が授与された。懇親会には約210名が参加した。

##### (2) 秋季講演会

平成27年11月16日、17日、東京大学生産技術研究所駒場IIキャンパスにおいて、平成27年秋季講演会を開催した。約300名の参加があり、一般講演が101件、OSが7テーマ(50件)の、合計151件の講演が行われた。特別講演として、東京大学生産技術研究所の加藤千幸教授により「大規模数値シミュレーションの産業技術応用」と題する講演が行われた。若手対象の英文ポスターセッションには10件の応募があり、最優秀賞1件、優秀賞2件が選定された。懇親会には約110名が参加した。

##### (3) 講演会企画委員会

委員数：山崎哲生委員長ほか6名

各支部講演会実行委員会および電子投稿WGとともに、春季・秋季学術講演会の企画・運営を行った。

#### 【2】論文集発行

##### (1) 論文審査委員会

委員数：日夏宗彦委員長ほか21名

主として国内からの投稿論文に対して論文審査を行い、有益な論文を集めて日本船舶海洋工学会論文集第21号、第22号を発行した。また平成28年3月8日開催の論文審査委員会において日本船舶海洋工学会賞(論文賞2件)および奨励賞3件を選考した。

##### (2) 日本船舶海洋工学会論文集刊行

表1-1のとおり日本船舶海洋工学会論文集第21号を平成27年6月に、第22号を平成27年12月に刊行した。

表1-1 日本船舶海洋工学会論文集刊行

	論文数	頁数	発行部数
論文集第21号 (平成27年6月)	10	99	1,000
論文集第22号 (平成27年12月)	25	250	1,000
計	35	349	2,000

#### 【3】英文論文集 (Journal of Marine Science and Technology) の発行 (科研費補助事業)

##### (1) JMST 編集委員会

委員数：梅田直哉委員長ほか46名

世界各国からの学術投稿論文に対して論文審査を行ない、有益な論文を59編集めてJMST Vol.20 No.2～Vol.21 No.1を編集した。編集委員会にて投稿分野の見直しを行い、理事会の議を経てOceanographyは投稿分野から外すこととした。

日本学術振興会の科学研究費補助金を受けて、海外より2名を招へいしAssociate Editorの会議(28.3.11開催)を行い、また基幹論文2編のオープンアクセス化を図るなど、国際情報発信の強化を行った。

##### (2) JMST 刊行

JMST Vol.20 No.2～Vol.21 No.1の4冊を、表1-2のとおり刊行した。

表1-2 英文論文集(JMST)刊行

	論文数	頁数	発行部数
Vol.20 No.2 (平成27年6月)	14	193	550
Vol.20 No.3 (平成27年9月)	16	197	550
Vol.20 No.4 (平成27年12月)	16	198	550
Vol.21 No.1 (平成28年3月)	13	178	550
計	59	768	2,200

#### 【4】調査・研究活動

##### 1. 研究企画委員会

委員数：谷澤克治委員長ほか12名

学会の研究活動全般を統括し、研究活性化戦略を企画・推進することを目的として、研究企画委員会を以下のとおり開催し、下記事項を実施した。

回	期日	場所	出席者数	議事件数
第31回	27.6.29	日本船舶海洋工学会	11名	6件
第32回	27.10.30	ニッセイ新大阪ビル	7名	6件
第33回	28.3.2	かんぼの宿竹原	8名	5件

実施事項：

- ・分野研究活動の報告及び検討
- ・新規研究委員会の設置に関する審議(5件)
- ・分野研究企画部会、研究会等の予算に関する審議
- ・分野からの重点追加事業の審議(3件)
- ・学会誌編集委員会との連携推進

##### 2. 分野研究企画部会

性能・運動分野

委員数：日野孝則部会長ほか7名

船舶及び海洋構造物等の性能・運動分野についての研究動向や産業界のニーズを踏まえ、我が国として取り組むべき重点課題の設定と研究活動方針の策定、実施体制の検討を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	27.6.10-11	I-site なんば	7名	12件
第2回	27.10.22-23	九州大学筑紫キャンパス	7名	10件
第3回	28.3.16-17	波止場会館	8名	9件

実施事項：

- ・推進・運動性能研究会の企画、実施
- ・重要研究課題の議論、および新研究委員会の企画
- ・ITTC/JTTC活動情報の共有化

#### 海洋工学・海洋環境分野

委員数：安澤幸隆委員長ほか10名

海洋工学および海洋環境分野の研究動向を調査・整理するとともに、今後の研究を企画・推進・支援するため、海洋工学・海洋環境分野研究企画部会を下記のとおり開催した。

回	期日	場所	出席者数
第31回	27.7.28	九大応用力学研究所	11名
第32回	27.11.20	福井県越前町	14名
第33回	28.3.10	東大生産技術研究所	9名

実施事項：

- ・海洋工学・海洋環境合同研究会の企画、実施
- ・関連研究委員会（P-44, P-48, S-13）の活動支援、企画立案
- ・日本海洋工学会と共催で第25回海洋工学シンポジウム開催
- ・波力発電装置見学会（27.11.19, 福井県越前町, 22名参加）の企画、実施
- ・海外の動向等の把握

#### 構造・強度、材料・溶接分野

委員数：鈴木克幸委員長ほか9名

構造・材料研究や共通構造規則に関し、材料・溶接研究会および各支部にある構造研究会の活動状況の情報交換を実施した。また4研究会の合同研究交流会を開催し、情報交換を促進した（第1回分野研究交流会）。

回	期日	場所	出席者数	研究発表
第1回	27.12.14	東京大学本郷キャンパス	48名	4件

実施事項：

- ・各研究会における活動（総計22回）の情報交換
- ・構造と材料を横断する研究テーマの探索
- ・3支部の構造研究会の交流の促進
- ・各研究会メンバーの他研究会への参加促進

#### 設計・艦装分野

委員数：荒井誠委員長ほか7名

造船設計部会、船体艦装工作部会、機関艦装部会、電気艦装部会の4部会の連携を図り、研究会及び研究委員会に対する評価基準に関する考え方について審議を行った。また、第12回造船設計・生産技術研究会シンポジウム「艦装設計における環境対策と極地航路」の企画を行った。

回	期日	場所	出席者数	議事件数
第1回	27.10.22	横浜市開港記念会館	6名	6件

#### 工作分野

委員数：大沢直樹委員長ほか11名

船殻工作分野に関わる諸問題の解決及び情報交換を目的とし、建造革新研究会の3つのWGに関する活動進捗確認及び活動方針検討を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	27.5.29	新大阪丸ビル会議室	17名	3件
第2回	27.8.12	新大阪丸ビル会議室	10名	3件
第3回	27.12.31	東京大学	11名	3件

#### 情報技術分野

委員数：濱田邦裕委員長ほか9名

造船および海事産業の情報技術に関する研究・開発動向を調査するとともに、今後の研究・開発の推進を目的として以下の通り

実施した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	27.06.26	名村造船所	8名	4件
第2回	27.08.31	横浜国立大学	8名	4件
第3回	27.11.17	東京大学(生技研)	9名	8件
第4回	28.01.26	ジャパンリソリテック	6名	5件

実施事項：

- ・研究企画部会の審議事項の報告と連携
- ・プロジェクト研究会（P40）活動進捗に関する審議
- ・次期プロジェクト研究委員会申請に関する審議

### 3. プロジェクト研究委員会

今期は9件のプロジェクト研究委員会を実施した。このうち今期に活動を終了した研究委員会は4件（P-40, P-41, P-43, P-45）、新たに活動を開始した研究委員会は2件（P-47, P-48）である。今期の委員会活動は以下のとおりである。

#### P-40 「船舶3D製品情報の共有と高度利用のための標準フォーマットの策定」研究委員会

委員数：濱田邦裕委員長ほか23名

船舶のライフサイクルに関する情報を、3次元製品情報を核としたデータ交換によって、迅速かつ有効に活用できる海事産業内情報交換標準を策定することを目的に以下の通り活動した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第6回	27.06.26	名村造船所	23名	2件
第7回	27.08.31	横浜国立大学	23名	2件
第8回	28.01.26	ジャパンリソリテック	23名	2件

実施事項：

- ・造船所内外での3D情報の高度利用法の統一化の検討
- ・関連技術の調査
- ・プロトタイプ版3Dビューアの検証
- ・秋季講演会オーガナイズド・セッション発表内容の討議
- ・東部支部ワークショップ発表内容の討議

#### P-41 JSQS（艦装関係）2015年版改訂研究委員会

委員数：篠田岳思委員長ほか18名

JSQS（艦装関係）改訂版の発行を27年度末までに行うことを目標にして以下の4テーマに関する調査研究を進めた。

- ・JSQS標準の見直し変更
- ・外注品の精度標準の策定検討
- ・PSPC対策
- ・技能教育

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第7回	27.7.9,10	三井千葉	20名	4件
第8回	27.11.19,20	JMU有明	19名	4件
第9回	28.3.10,11	三菱長崎	21名	4件

#### P-42 PSPC 適用船の施工のための裏焼け防止検討研究委員会

委員数：篠田岳思委員長ほか18名

本実験の準備確認と本実験前に溶接熱の入熱状況を把握するための事前実験について確認を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第3回	27.7.9,10	三井千葉	20名	1件
第4回	27.11.19,20	JMU有明	19名	1件
第5回	28.3.10,11	三菱長崎	21名	1件

#### P-43 BCMを用いた船体流場の大規模CFD解析に関する研究委員会

委員数：土井康明委員長ほか7名

非構造格子有限体積法ベースのオープンソースCFDツール上で階層型直交格子（BCM）を構築するプログラムを製作し、BCM格子を用いてベンチマーク船型（JBC船型）周りの流れの解析を実施した。空間解像度や格子規模と解析精度との関係を調査すると

ともに、自由表面流れの解析における課題を明らかにした。平成27年度はプログラム開発に時間を要したため委員会活動が充分でなかったが、メール審議等で解析結果の評価を実施した。

**P-44 海洋エネルギー施設の影響評価に関する研究委員会**

委員数：北澤大輔委員長ほか7名

平成26年度に策定した環境影響評価事例のレビューフォーマットに基づき、主に海生動物のタービブレードへの衝突、水中音の影響、魚礁効果について、個々の環境影響評価事例をまとめた。また、IEA/OES Annex IVのPhase Iレポートをレビュー対象に加えて、調査を行った。

- ・環境影響評価事例のレビュー
- ・IEA/OES Annex IVのPhase Iレポートの調査
- ・国内での環境影響評価実施状況の情報交換

回	期日	場所	出席者数	議題
第4回	27.9.18	東大生研	6名	3件
第5回	28.3.10	東大生研	4名	2件

**P-45 「バラスト管装置設計基準の全面改訂」研究委員会**

委員数：荒井誠委員長ほか17名

旧来のJSDS-10を昨今の船型及び条約に見合ったものに改訂することを目的に活動を行った。近年のトワール事例を反映した改訂版を作成し、委員会審議を終了した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	27.6.9	三井造船 本社	7名	1件
第2回	27.9.7	三井造船 本社	6名	1件
第3回	27.10.23	横浜市開港記念会館	23名	1件
第4回	28.3.3	ホテルセントヒル長崎	22名	1件

実施事項：

- ・造船設計部会での内容審議
- ・改訂版「バラスト管装置設計基準」の配信

**P-46 「船内交通装置設計指針」研究委員会**

委員数：荒井誠委員長ほか17名

旧来のJSDS-21を昨今の船型及び新規則に見合ったものに改訂することを目的に活動を行った。危険防止の観点で、事故例の解析、リスク分析といった安全・信頼性の検討結果を追加した改訂版を作成し、最終原稿を取り纏め中である。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	27.9.7	博多駅会議室	7名	1件
第2回	27.10.23	横浜市開港記念会館	23名	1件
第3回	27.11.10	博多駅会議室	7名	1件
第4回	28.3.3	ホテルセントヒル長崎	22名	1件

実施事項：

- ・ドラフト原稿の各社協議を実施
- ・造船設計部会にて各社コメントへの対応について審議
- ・最終原稿の各社協議を実施
- ・造船設計部会にて最終原稿の内容について審議

**P-47 船体疲労強度設計法の精密化のための研究委員会**

委員数：深沢塔一委員長ほか12名

実際の船の運航と海象を考慮に入れた荷重推定とそれを基にした亀裂伝播実験・解析を行い、船の航路を特定した場合の疲労寿命推定が可能となる手法を開発した。

回	期日	場所	出席者数
第1回	27.5.25	神戸国際会議場	9名
第2回	27.10.5	学会会議室	9名
第3回	28.1.25	学会会議室	9名
第4回	28.3.3	JMU 技術研究所	9名

実施事項：

- ・重畳波による疲労試験とその評価
- ・ウェザールーティングシミュレーション
- ・疲労寿命評価に対するホイッピングの影響の評価

**P-48 海洋における生態系サービスの評価に関する研究委員会**

委員数：大塚耕司委員長ほか9名

生態系サービスに関する2編のレビューペーパーを講読するとともに、国内の生態系サービスに関する文献の抽出ならびに海洋の生態系サービスに関わる論文のスクリーニングを行った。また、今後の研究委員会の進め方について委員間で意見交換を行った。

- ・研究委員会の進め方の策定
- ・生態系サービスのレビューペーパーの講読
- ・生態系サービスに関する国内文献の抽出
- ・海洋の生態系サービスに関わる論文のスクリーニング

回	期日	場所	出席者数	議題
第1回	28.2.15	東大本郷	3名	3件
第2回	28.3.18	東大本郷	8名	3件

**4. ストラテジー研究委員会**

戦略的課題について研究する3件のストラテジー研究委員会を実施した。このうち今期に活動を終了した研究委員会はなく、今期から新たに活動を開始した研究委員会は2件(S-13, S-14)である。今期の委員会活動は以下のとおりである。

**S-12 IMO 最低出力ガイドライン策定方針研究委員会**

委員数：安川宏紀委員長ほか25名

EEDI規制を受けて主機の小型化が進むと主機出力が小さくなり、その結果として荒天航行時の安全性が確保できない懸念がある。本委員会では、最低出力を規制するガイドラインの最終案の審議に向けて、我が国の運動性能研究の蓄積に基づき、これから実施すべき研究開発の具体的な方向性を策定・提案する事を目的とした。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第5回	27.5.27	水産工学研究所	20名	5件
第6回	27.9.16	三菱重工業品川本社	23名	8件
第7回	27.12.11	日本造船工業会	25名	16件
第8回	28.3.3	大阪大学東京ブランチ	25名	6件

実施事項：

- ・最低出力ガイドラインの策定に関する情報交換および討議
- ・シミュレーション計算、水槽試験結果の報告および討議
- ・操船限界と針路安定性に関する討議
- ・「船舶の最低主機出力に関するシンポジウム」(28.3.18)を日本航海学会と共催

**S-13 海洋再生可能エネルギー水槽実験方法検討委員会**

委員数：村井基彦委員長ほか16名

海洋再生可能エネルギーについては、コンセプト段階から実証段階まで様々な段階のプロジェクトが進行しているが、商用機として運用例は実質的に無い。また再生可能エネルギー関連装置は、従来の海洋構造物と違い、発電量が重要な評価基準である。これらを背景に浮体や水中構造物を用いた海洋再生可能エネルギーに関する水槽実験の現状把握と分析を行った。

回	期日	場所	出席者数	議事件数
第1回	27.9.1	学会会議室	7名	3件
第2回	27.11.18	学会会議室	9名	3件
第3回	28.3.23	長崎・貸会議室	7名	2件

実施項目：

- ・海洋再生可能エネルギーに関する水槽実験の最新動向調査
- ・調査事項の整理手法の検討
- ・海洋再生可能エネルギーに関する水槽実験のガイドライン等に関する情報交換

**S-14 コンテナ船最終強度検討FS委員会**

委員数：藤久保昌彦委員長ほか26名

コンテナ船の縦曲げ最終強度に関する国内外の研究動向を調

査するとともに、学術的観点から今後究明すべき課題について提言を行うこと目的として、委員会を以下のとおり開催し、下記事項を実施した。

回	期日	場所	出席者数	報告件数
第1回	27.8.18	JMU 本社	21名	7件
第2回	27.10.19	大阪大学東京ブランチ	22名	12件
第3回	28.1.13	大阪大学東京ブランチ	20名	4件
第4回	28.3.30	新大阪丸ビル別館	18名	10件

実施事項：

- ・コンテナ船縦曲げ最終強度に関する研究・技術情報交換
- ・コンテナ船縦曲げ最終強度に関する文献調査
- ・荷重、強度、安全性評価法に関する研究課題の抽出

## 5. 研究会

船舶海洋工学に係わる情報交換および技術交流を支援・促進するため各種研究会を常設し、研究発表およびシンポジウム開催等の活動を実施した。推進性能研究会と運動性能研究会は、平成27年度から統合し推進・運動性能研究会となった。その他の現在設置の研究会は次のとおりである；材料・溶接研究会、建造革新研究会、造船設計・生産技術研究会、海洋工学研究会、海洋環境研究会、情報技術研究会。

### 推進・運動性能研究会

会員：日野孝則会長ほか284名

船舶・海洋構造物の推進・運動性能に関して広く情報交換を行い、この分野の研究交流を促進して、関連分野の発展に寄与することを目的として、以下の研究会を実施した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	27.6.10-11	I-site なんば	56名	11件
第2回	27.10.22-23	九州大学筑紫キャンパス	44名	11件
第3回	28.3.16-17	波止場会館	60名	13件

実施事項：

- ・下記企画を研究会にて開催し、集中的な討議を行った。  
特別企画「最低主機出力問題に関わる研究について」、「我が国における潮流発電の現状と今後の課題」
- ・施設見学（九州大学応用力学研究所：深海機器力学実験水槽）
- ・その他一般研究発表と討議

### 材料・溶接研究会

会員：栗飯原周二会長ほか43名

材料・溶接・破壊力学分野について、最新研究の情報交換、討議を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第29回	27.7.10	東京大学山上会館	23名	3件
第30回	27.10.9	東京大学山上会館	20名	3件
第31回	27.12.21	東京大学山上会館	14名	3件
第32回	28.3.18	東京大学工学部3号館	20名	3件

実施事項：

以下に例を示す項目について発表・討論を行った

- ・同軸複層ワイヤを用いた純Ar-GMAWの、9%Ni鋼共金溶接への適用検討
- ・レーザー溶接時の凝固割れ感受性評価
- ・EBSDを利用した結晶粒レベルの微視的応力分布測定手法の適用可能性に関する検討
- ・超音波衝撃処理（UIT）を施した溶接継手の止端残留応力緩和と疲労寿命予測
- ・高張力鋼溶接金属シャルピー衝撃特性の、局所破壊応力による評価

### 建造革新研究会

会員：大沢直樹会長ほか38名

船舶建造の船殻分野に関わる諸問題の解決及び情報交換を行う

ことを目的とし、3つのワーキンググループにより下記の活動を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
総会	27.6.11	JMU 磯子	38名	5件

WG1：

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	27.6.11	JMU 磯子	15名	6件
第2回	27.9.17-18	MES 千葉	12名	6件
第3回	27.12.17-18	JMU 舞鶴	12名	6件
第4回	28.3.17-18	MHI 長崎	9名	6件

WG2：

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	27.6.11	JMU 磯子	12名	6件
第2回	27.9.24-25	常石造船	12名	6件
第3回	27.12.3-4	MHI 下関	10名	6件
第4回	28.3.7-8	KHI 神戸	10名	6件

WG3：

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	27.6.11	JMU 磯子	13名	6件
第2回	27.9.17-18	函館どつく	13名	6件
第3回	27.12.21-22	サノヤス造船	11名	6件
第4回	28.3.10-11	JMU 呉	11名	6件

実施事項：

- ・歪取り及び薄板工作法について（WG1）
- ・工作精度について（WG2）
- ・先端技術の造船への適用を検討評価（WG3）  
3Dプリンタ、モニタリングカメラ、マルチコプター、プロジェクションマッピングの試用・評価を実施した。

### 造船設計・生産技術研究会

会員：荒井誠会長ほか4部会合わせて96名

船舶・海洋構造物の船体・機関・電装に係わる計画から設計・艤装工作に至るまでの過程における技術的諸問題を考究し、その成果を設計や生産に関する指針・基準として纏め、設計・生産技術の高度化を図ることを目的とした活動を展開した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
造船設計部会：				

第122回	27.10.23	横浜市開港記念会館	23名	5件
第123回	28.3.3-4	ホテルヒル長崎	22名	5件

船体艤装工作部会：篠田岳思部会長

第30回	27.7.9,10	三井千葉	20名	4件
第31回	27.11.19,20	JMU 有明	19名	4件
第32回	28.3.10,11	三菱長崎	21名	4件

機関艤装部会：井上順広部会長

第17回	27.10.13-14	JMU 有明	22名	8件
------	-------------	--------	-----	----

電気艤装部会：金子仁部会長

第15回	27.11.19-20	JMU 舞鶴	20名	7件
------	-------------	--------	-----	----

また、4部会合同で第12回シンポジウム「艤装設計における環境対策と極地航路」を開催した。

期日	場所	参加者数	講演件数
27.10.22	横浜市開港記念会館	76名	9件

### 海洋工学研究会

会員：安澤幸隆会長ほか103名

当該分野の研究活動活性化と若手研究者の育成を目的として、研究会を以下のとおり開催し、下記事項を実施した。

研究会開催（海洋環境研究会と合同研究会）

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第31回	27.7.28	九大応用力学研究所	25名	6件
第32回	27.11.20	福井県越前町	17名	5件
第33回	28.3.10	東大生産技術研究所	26名	9件

このほか構造部会を計3回開催した。

実施事項：

- ・日本海洋工学会と共催で第25回海洋工学シンポジウム(27.8.6

～7) を開催 (井上俊司実行委員長)

- ・P-44, P-48, S-13 への会員の参加による活動支援
- ・海洋再生可能エネルギー開発に関連する特別講演会の開催 (27.7.28 と 27.11.20)
- ・波力発電装置見学会 (27.11.19, 福井県越前町)

#### 海洋環境研究会

会員：林昌奎会長ほか計 78 名

海洋環境の調査・保全・修復、海洋環境変動の評価・予測等に関する研究を推進・支援するため、海洋環境研究会などを下記のとおり開催した。

研究会開催 (海洋工学研究会と合同研究会)

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第31回	27.7.28	九大応用力学研究所	25名	6件
第32回	27.11.20	福井県越前町	17名	5件
第33回	28.3.10	東大生産技術研究所	26名	9件

実施事項：

- ・P-44, P-48, S-13 への会員の参加による活動支援
- ・第 25 回海洋工学シンポジウムの開催
- ・波力発電装置見学会の実施 (27.11.19)
- ・東アジアの海洋環境研究者ネットワークワークショップ (EAWOMEN<sup>2</sup>) の開催 (27.10.15-17, 台湾海洋大学, 日本から 8 件発表)
- ・第 31 回沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイント・シンポジウムの開催 (28.1.9, 東京海洋大学, 発表 9 件)
- ・学生の交流会を企画, 実施 (28.3.10, 学生発表 8 件)

#### 情報技術研究会

会員：青山和浩会長ほか 39 名

造船および海事産業の情報技術に関する調査研究とニーズや技術課題の発掘を目的に、以下の通り活動した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第 30 回	27.06.26	名村造船所	23 名	5 件
第 31 回	27.08.31	横浜国立大学	23 名	5 件
第 32 回	28.01.26	ジャパンマリンイテッド	23 名	5 件

実施事項：

- ・機関紙「すうちせいぎよ」の発行
- ・情報技術 (業界, 他業界) に関する話題の提供と討議
- ・ドイツにおける Industry4.0 の活動調査と報告

## 6. 学術大型研究計画の提案

日本学術会議の「学術大型研究計画マスタープラン 2017」に会員から提案のあった案件を調整・検討の上取り纏め、学会長提案として 3 件を応募した。

### 【5】国際学術協力等

#### 1. 日韓ジョイントセッション

韓国造船学会の平成 27 年秋季講演会 (韓国 Goje Isalnd) において、11 月 5 日、第 4 回日韓ジョイントセッションを開催した。セッションテーマを「Smartship technology」とし、日韓 3 名ずつの講演があった。参加者は 2 会場でおおよそ 70 名と 30 名であった。セッションが 2 会場に別れたため、不便との意見があった。

#### 2. Pan Asian Association of Maritime Engineering Societies (PAAMES)

平成 27 年 11 月 30 日に、中国・上海で開催された PAAMES/AMEC (Advanced Maritime Engineering Conference) 2016 の ISC (International Standing Committee) に、原壽会長、佐藤徹理事、深沢塔一教授を派遣し、PAAMES/AMEC の運営に関する議論を行った。7th PAAMES/AMEC2016 (香港) にはアジアの 17 学会が参加予定で、日本から 20 件の論文が期待さ

れることが表明された。ISC の席上、JASNAOE の管理している PAAMES web site に対して、参加学会から謝意が示された。

#### 3. World Maritime Technology Conference/Congress (WMTTC)

平成 27 年 11 月 3-7 日に米国ロードアイランドで行われた WMTTC2015 に佐藤徹理事を派遣し、ISC (International Steering Committee) にて議案の審議を行った。SNAME から研究部会設立の提案があったが、その後の本会理事会において、成り行きを慎重に見守ることとした。

#### 4. World Engineering Conference and Convention (WECC)

平成 27 年 11 月 29 日～12 月 2 日に京都で開催された世界工学会議 (WECC2015) (実施主体：日本工学会・日本学術会議) において、「海洋技術、船舶、海洋エネルギー利用および海洋資源開発」に関するセッションを主催 (司会：日野孝則副会長) した。セッションにはおおよそ数十人が参加し、韓国と日本から、ドリルシップ、環境を考慮したエンジン、潮流発電および深海採鉱に関する 4 件の論文発表があり、活発な討論が行われた。

#### 5. 国際対応委員会

国際的な諸活動に対応するため下記の委員会を開催した。

##### (1) JTTC 委員会

委員数：柏木正委員長ほか 34 名

ITTC (国際試験水槽会議) への対応および船舶性能に関わる調査研究を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第 29 回	27.6.10	大阪府立大学	21 名	11 件
第 30 回	27.10.22	九州大学応力研	17 名	11 件
第 31 回	28.3.16	横浜市波止場会館	20 名	13 件

実施事項：

- ・第 28 期 ITTC 各委員会の進捗状況等に関する情報交換
- ・平成 27 年度予算の執行内容、機関代表交代の承認

##### (2) JSSC 委員会

委員数：藤久保昌彦委員長ほか 20 名

ISSC (国際船舶海洋構造会議) への対応および構造・材料分野の調査研究を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第 24 回	27.7.1	川崎重工業東京本社	20 名	8 件

実施事項：

- ・ISSC2015 実施内容ならびに進捗状況の確認
- ・ISSC2015 総会への参加および議事内容の報告
- ・ISSC2018 委員の選考

##### (3) 国際企画委員会 国際基準部会

委員：佐藤徹委員長ほか 11 名

IMO の規則委員会に英国造船協会 RINA から提案された起案について、国際基準部会で審議を行い、当学会としての見解を RINA に回答した。

##### (4) PRADS 2019 招致準備委員会

PRADS 2019 を横浜に招致するため、招致準備委員会を発足した。

### 【6】シンポジウム等の開催

#### 1. World NAOE Forum 2015

第 5 回目となる世界船舶海洋工学フォーラムは、日本船舶海洋工学学会、RINA、日本マリンエンジニアリング学会、日本航海学会の共催により、Energy Diversification and Ships をテーマとして、講演およびパネルディスカッションを行った。Keynote Lecture と 1. Hydrogen Energy and Maritime Usage, 2. Emission Control and Regulation, 3. Solutions on Ship Design の 3 Session でそれぞれ 3 件の講演を行った後、パネルディスカッションを行い、将来展望を議論した。

期日：平成 27 年 12 月 7 日

場所：Hotel Granvia Hiroshima（広島市）

参加人数：161名，内外国人16名，非会員74名

## 2. 「船舶の最低主機出力に関するシンポジウム」

EEDI規制を受けて主機の小型化が進むと主機関出力が小さくなり，その結果として荒天航行時の安全性が確保できない懸念がある。本シンポジウムは日本船舶海洋工学会と日本航海学会の共催として，船舶の最低主機出力規制に関わる最新の技術動向についての講演が行われ，多数の参加者を得て，活発な議論が行われた。

期日：平成28年3月18日(金)

場所：東京海洋大学 越中島会館講堂

参加人数：94名（学生多数），講演数：9件

### 【7】研究者・技術者の海外共同研究促進事業

研究活動のグローバルな活性化と国際的な人材育成の促進を目的に，ブラジルから2名の若手研究者(30歳代)を招聘し，平成28年2月25日～26日，日本の7名の若手研究者(20～30歳代)との共同研究醸成に向けた打合せを都内会場(ホテル・ヴィラ・フォンテーヌ)にて実施した。各参加者の研究内容および将来課題に関して，相互の活発な議論が行われた。

今回参加のブラジル/日本の研究者間で，次年度の共同研究提案の可能性について引き続き協議することになった。

### 【8】後援および協賛

関連学協会の講演会・シンポジウム等に75件の協賛と1件の後援を行った。また日本学術会議が主催する講演会等を共催した。

### 【9】支部活動

#### 1. 東部支部

会員および広く公益に資する目的で，海事関連の最新テーマに関するワークショップを2回開催した。また構造に係わる技術交流，研究活動のため構造研究会を実施した。

##### (1) 第1回東部支部ワークショップ

「高度情報化時代における船舶建造の革新」

期日：平成28年2月17日

場所：東京大学工学部1号館15号講義室

参加人数：51名（内，非会員12名）

講演数：6件，懇親会参加者：26名

##### (2) 第2回東部支部ワークショップ

「数値シミュレーション技術の現状と将来」

期日：平成28年3月18日

場所：東京大学生産技術研究所 コンベンションホール

参加人数：44名（内，非会員12名）

講演数：6件，懇親会参加者：23名

##### (3) 東部支部構造研究会

回	期日	場所	出席者数	講演数
第39回	27.5.20	横浜国立大学	25名	3件
第40回	27.9.25	東京大学	28名	3件
第41回	28.1.15	三井造船	26名	3件

#### 2. 関西支部

##### (1) 特別講演会

期日：平成28年1月15日

場所：神戸クリスタルホール

出席者：53名

題目：台風の予測精度向上に関する研究開発と最新の成果  
((気象庁気象研究所 瀬古弘氏)

大型台風など地球規模での災害の多発に対する気象・海象の予測技術の向上と，最新の研究成果について紹介された。

##### (2) 関西支部シンポジウム

・第1回シンポジウム(KFRと共催)

期日：平成28年3月15日

場所：大阪大学中之島センター

出席者：48名

題目：実海域運航から見た船舶性能の課題

講演 3件 およびパネルディスカッション

運航現場の課題を運航者を交えて議論し，今後造船技術者が取り組むべき課題を明らかにした。

##### ・第2回シンポジウム(KSSGと共催)

期日：平成28年3月16日

場所：大阪大学中之島センター

出席者：47名，講演 5件

題目：溶接シミュレーションの工学的展開

溶接を中心としたシミュレーション技術について概説するとともに，その適用例について紹介された。

##### (3) KFR(関西船舶海洋流体力学研究会)

第329回例会(平成27年5月15日)

場所：新大阪丸ビル新館 出席者：37名

題目：基礎講座：船舶操縦性の基礎と実践

第330回例会(平成27年10月1日)

場所：大阪大学理工学図書館ホール 出席者：25名

題目：特殊船を知る

第331回例会(平成27年12月4日)

場所：I-site なんば

題目：IMO最低出力ガイドラインについて 出席者：66名

第332回例会(支部研究運営委員会と共催)

期日：平成28年3月15日

場所：大阪大学中之島センター 出席者：48名

##### (4) KSSG(関西船体構造研究会)

第1回(平成27年7月8日)

場所：大阪研修センター江坂 出席者：18名

第2回(平成27年9月18日)

場所：新大阪丸ビル 出席者：17名

第3回(平成27年12月2日)

場所：新大阪丸ビル別館 出席者：20名

第4回(支部研究運営委員会と共催)

期日：平成28年3月16日

場所：大阪大学中之島センター 出席者：47名

#### 3. 西部支部

##### (1) 西部支部構造研究会

回	期日	場所	出席者
第31回	27.5.19	常石造船安全研修センター	34名
第32回	27.9.30	今治地域地場産業振興センター	34名
第33回	28.1.19	パピヨン24	37名

##### (2) 西部支部構造研究会シンポジウム

題目：「船体振動・騒音の規制・予測に関する最近の動向」

期日：平成28年3月14日

場所：ホテル広島ガーデンパレス

参加人数：48名，講演：5件

船体振動・騒音は予測が難しい現象であり，また，新しい規則も導入されている。これらの予測や対処に関する最近の動向を確認や意見交換を行った。

##### (3) 西部支部性能研究会

題目：Workshop on Environmental Technologies in Naval Architecture and Ocean Engineering, 2015

期日：平成27年11月2日，3日

場所：広島大学工学部

参加人数：40名，講演：18件

船舶海洋分野の学生や企業の若手研究者・技術者に気軽に参加できる国際会議の場を提供するとともに当該分野の環境関

連技術に関する情報交換を行った。  
 (4) 西部支部ワークショップ  
 題目：「洋上風力発電に関する現状と可能性」  
 期日：平成27年9月4日  
 場所：九州大学西新プラザ

参加人数：54名，講演：6件  
 再生可能エネルギーへの転換をめざし，現在各地で浮体式洋上風力発電の実証実験が行われている浮体式洋上風力発電の現状を確認するとともに，今後の方向性や可能性について意見交換を行った。

## II 啓発・広報事業

**【1】能力開発センター**  
**1. 能力開発センター運営委員会**  
 委員数：吉川孝男委員長ほか5名  
 能力開発センターを構成する技術者資格支援委員会，CPD委員会，大学等教育支援委員会の活動を推進した。  
**2. 技術者資格支援委員会**  
 委員数：八木光委員長ほか1名  
 技術士補（技術士第1次試験）の資格取得のための講習会を開催した。技術士一次試験の専門科目（機械とシステム，浮体の力学，計測・制御，材料・構造）について4名の講師による講習を行った。  
 期日：平成27年5月21日～22日  
 場所：学会会議室  
 後援：日本マリンエンジニアリング学会，日本造船工業会  
 参加人数：7名  
**3. CPD委員会**  
 委員数：新宅英司委員長ほか4名  
 継続的能力開発（CPD）ポイント蓄積システムの運用を行い，運営効率を改善するためシステムの見直しを行った。またCPDポイント制度の普及に努めた。  
**4. 大学等教育支援委員会**  
 委員数：馬場信弘委員長ほか6名  
 日本技術者教育認定機構（JABEE）の活動に協力し，船舶海洋系大学の教育プログラムの，JABEE認定に向けた支援を行った。

**【2】船舶海洋工学シリーズの英訳出版**  
 海外の造船技術者育成に資する目的で「船舶海洋工学シリーズ」の英語版の翻訳・出版作業を進め，第1巻「Ship Geometry and Fundamentals of Hydrostatics」を刊行した。

**【3】造船技術者社会人教育**  
 若手造船技術者の実務に役立つ実践的な教育のため，日本造船工業会，日本中小型造船工業会と共催し，造船技術者社会人教育（第15回）を実施した。

**【4】海洋教育推進活動**  
**1. 海洋教育推進委員会**  
 委員数：小林正典委員長ほか57名

(1) 委員会の開催  
 運営委員会，WG戦略会議，支部委員会，フォーラム実行委員会を下記のとおり開催し，以下について審議した。

期日	委員会名	出席者数
27.6.1	第22回運営委員会	8
27.6.1	第11回WG戦略会議	16
27.6.1	第7回全体委員会	17
27.9.9	第23回運営委員会	8
27.9.9	第12回WG戦略会議	13

27.11.6	第24回運営委員会	7
27.11.6	第13回WG戦略会議	12
27.12.25	第25回運営委員会	7
27.12.25	第14回WG戦略会議	13
28.2.16	第26回運営委員会	5
28.2.16	第15回WG戦略会議	9

(2) 海洋教育フォーラムと海洋教育セミナーの開催

- 第10回東部支部海洋教育セミナー  
 期日：平成27年6月1日  
 場所：東京海洋大学品川キャンパス  
 プログラム：講演7件 参加者数：17名
- 第7回西部支部海洋教育セミナー  
 「日本生活科・総合的学習教育学会」  
 期日：平成27年6月20日21日  
 場所：福岡大学付属若葉高等学校  
 プログラム：講演27件 参加者数：15名
- 第15回海洋教育フォーラム  
 「私たちの海～恵みと恐れ～」  
 期日：平成27年11月14日  
 場所：東北工業大学  
 プログラム：講演2件 参加者数：170名
- 第16回海洋教育フォーラム  
 「海洋考古学からみた海・船・人」  
 期日：平成27年11月28日  
 場所：静岡市東部勤労者福祉センター  
 プログラム：講演4件 参加者数：35名
- 第17回海洋教育フォーラム  
 「船舶工学者，船を語る」  
 期日：平成27年11月28日  
 場所：大阪科学技術センター  
 プログラム：講演3件 参加者数：35名
- 第18回海洋教育フォーラム  
 「宇宙から見た海のすがた～見えないものが見える技術～」  
 期日：平成27年12月12日  
 場所：呉市海事科学歴史館  
 プログラム：講演4件 参加者数：40名
- 第19回海洋教育フォーラム  
 「海の環境とエネルギー」  
 期日：平成27年12月12日  
 場所：長崎歴史文化博物館  
 プログラム：講演5件 参加者数：88名
- 第20回海洋教育フォーラム  
 「私たちの海『海をまもる』」  
 期日：平成28年3月12日  
 場所：記念館「三笠」講堂  
 プログラム：講演3件 参加者数：146名
- 第21回海洋教育フォーラム  
 「海洋空間利用の現在とこれから」  
 期日：平成28年3月19日

場所：東京海洋大学越中島キャンパス  
 プログラム：講演 4 件 参加者数：106 名

(3) 海洋教育に関する広報活動

- ・海洋教育に関するイベントの紹介記事を学会誌に掲載した。
- ・海洋教育イベント情報をホームページに掲載した。
- ・「海の不思議箱」のコンテンツを追加・充実した。

(4) 海洋教育に関する企画

- ・海洋教育に関する映像資料，およびその作成経費を調査するとともに，DVD 資料を入手した。
- ・国立科学博物館の 2015 夏休みサイエンススクエアにおいて，海と船の工作ひろば「すいすい推力船を作ってみよう！」を実施した．，バンドー神戸青少年科学館で，すいすい水力推力船の工作教室を実施した。
- ・教諭および教諭志望の学生を対象として，海洋教育夏季研修を実施した。
- ・自然体験学習として，海藻のおしば体験を実施した。
- ・大阪大学船舶海洋試験水槽一般公開を実施した。

2. 青少年啓蒙活動

(1) 東部支部おもしろ船教室

期日：平成 27 年 8 月 7 日  
 場所：横浜港，横浜シンボジア  
 参加者数：89 名  
 プログラム：港内遊覧船マリンシャトル（764GT）による横浜港内見学，実験を主体とした講演

(2) 西部支部夏休みおもしろ船教室

期日：平成 27 年 8 月 9 日  
 場所：広島大学東広島キャンパス  
 参加者数：30 名(+保護者)  
 プログラム：自然エネルギーで動くエコロジー船の体験，工作

(3) その他啓蒙活動

- ・そのほか下記の活動を共催・後援した。
- ・海技大学校「海技丸」体験航海と講演会（27.7.22, 7.26）
- ・神戸大学体験型海洋セミナー「海と船に親しむ！体験航海，深江丸」（27.8.22-23）
- ・'15水中ロボットコンベンション in JAMSTEC（27.8.28-8.30）
- ・第6回水中ロボットフェスティバル（28.3.27）

3. 一般向け講演会の開催

表 2-1 のとおり造船系 8 大学にて小学生から高校生を含む一般向けの講演会等を開催した。本事業は日本造船工業会より補助金を受けた。

4. 夏の学校

2泊3日または1泊2日で，性能・運動分野および構造強度・材料溶接分野の専門家に講義を依頼し，若手技術者の専門教育の充実，および交流を促進する「夏の学校」を以下のように開催した。

(1) 性能・運動分野

期日：平成 27 年 8 月 28～ 30 日  
 場所：湘南セミナーハウス（神奈川県）  
 参加者数：28 名  
 プログラム：特別講義 3 件，基礎講義 2 件

(2) 構造強度・材料溶接分野

期日：平成 27 年 8 月 21～22 日  
 場所：九州大学伊都キャンパス（福岡県）  
 参加者数：29 名  
 プログラム：講義 6 件

表2-1 一般向け講演会

大学	開催日/場所	参加者
東京大学	平成 27 年 11 月 23 日 東京夢の島マリナー	40
東京海洋大学	平成 27 年 7 月 20 日 越中島キャンパス	120
	平成 27 年 7 月 24 日 越中島キャンパス	100
	平成 27 年 9 月 27 日 江東区	60
横浜国立大学	平成 27 年 7 月 20 日 横浜国立大学キャンパス	83
	平成 27 年 8 月 22 日 横浜国立大学キャンパス	80
大阪大学	平成 27 年 11 月 4 日 大阪大学キャンパス	6
	平成 28 年 1 月 31 日 神戸国際会議場（伊ノ森・7エ7）	1440
大阪府立大学	H27 年 7 月 11 日 開智中学校・高等学校	318
	H27 年 11 月 17 日 大阪市立咲くやこの花高校	30
	H27 年 12 月 16 日 大阪府立春日丘高校	11
広島大学	平成 27 年 8 月 9 日 山口高校・徳山高校・岩国高校	120
	平成 27 年 9 月 9 日 高松第一高校	40
九州大学	平成 27 年 5 月 17 日 伊都キャンパス	540
長崎総合科学大学	平成 27 年 8 月 7 日 長崎総合科学大学	60

【5】会誌発行

会員および広く一般に海事関連の最新情報を提供し，また学会活動を広報・周知するため，学会誌「KANRIN」を隔月に発行した。

(1) 学会誌編集委員会

委員数：藤本由紀夫委員長ほか 58 名  
 ・学会誌発行の全体計画および調整のため，下記の編集幹事会を開催した。

回	期日	場所	出席者数
第 41 回	27.5.27	神戸（海友館）	14
第 42 回	27.7.3	日本船舶海洋工学会	9
第 43 回	27.9.25	東京大学三崎臨海実験所	10
第 44 回	27.12.24	JR 博多シティ	11
第 45 回	28.3.22	日本船舶海洋工学会	9

・特集等の企画・編集のため，各支部単位の編集委員会を随時開催した。

・会誌「KANRIN」第 60 号～65 号を各支部編集委員会の分担により編集し，発行した。

・研究企画委員会との連携で連載解説記事（初回は「船舶 CFD の最前線」）及び推薦図書紹介連載（分野別）を開始した。

・創刊 10 周年企画として 10 年間の振り返り，今後の展望，これからの技術に関する座談会，統計からみた KANRIN の変遷などについて第 61 号（7 月号）に掲載した。

・平成 28 年度より「会員の声」ページの新設を予定し，投稿規定を準備した。

(2) 刊行

日本船舶海洋工学会誌「KANRIN」第 60 号から 65 号までの 6 冊を表 2-2 のとおり刊行し会員に配布した。



表 2-2 日本船舶海洋工学会誌「KANRIN」発行

会誌・号・発行月	頁数	発行部数
KANRIN 第 60 号 (平成 27 年 5 月)	82	5,100
KANRIN 第 61 号 (平成 27 年 7 月)	136	5,100
KANRIN 第 62 号 (平成 27 年 9 月)	80	5,100
KANRIN 第 63 号 (平成 27 年 11 月)	83	5,100
KANRIN 第 64 号 (平成 28 年 1 月)	67	5,100
KANRIN 第 65 号 (平成 28 年 3 月)	80	5,100
計	528	30,600

【6】電子情報サービス

会員をはじめとする国民一般への広報・情報発信として、学会ホームページの管理運用を行った。また会員の利便性向上の一環として、会員サイトおよび英文ページの情報の充実を図るとともに、ホームページ活性化のために、フォトギャラリーの企画を立案した。

(1) 情報管理委員会

委員数：吉田泰三委員長ほか3名

下記のとおり4回の情報管理委員会を開催し、主として学会ホームページの運用に関する審議を行った。

回	期日	場所	出席者数
第1回	27.6.30	日本船舶海洋工学会	7
第2回	27.9.30	日本船舶海洋工学会	6
第3回	27.12.16	日本船舶海洋工学会	6
第4回	28.3.2	日本船舶海洋工学会	6

(2) 主な実施事項

- ・日本船舶海洋工学会ホームページの企画・管理・運用
- ・メールニュースNo.214～239の発行
- ・会員サイトのコンテンツの追加・充実
- ・英文ページのコンテンツ充実
- ・フォトギャラリーの企画

【7】褒賞

日本船舶海洋工学会細則第 33 条から 36 条にもとづき、学会賞、船舶海洋技術賞等を授与した。

- 1) 平成27年度定時総会において、表2-3 のとおり日本船舶海洋工学会賞・日本造船工業会賞・日本海事協会賞を授与した。
- 2) 平成27年度定時総会において、表2-4 のとおり第39回船舶海洋技術賞が富田康光君に授与された。
- 3) 平成27年度定時総会において、表2-5のとおり日本船舶海洋工学会奨励賞(乾賞)を授与した。
- 4) 平成27年度定時総会において、表2-6のとおり日本船舶海洋工学会賞(開発等)を授与した。
- 5) 船舶海洋系大学および大学院(修士課程)の卒業者の中から成績優秀な者に表2-7のとおり、奨学褒賞を授与した。
- 6) 商船高等専門学校等の卒業者の中から成績優秀な者に表2-8のとおり、奨学褒賞を授与した。
- 7) 工業高等学校の卒業者の中から成績優秀な者に表2-9のとおり、奨学褒賞を授与した。

【8】シップ・オブ・ザ・イヤー授賞

毎年日本で建造された船舶・海洋構造物の中から、技術的・芸術的・社会的に優れた作品を選考して表彰するシップ・オブ・ザ・イヤーの25回目となるシップ・オブ・ザ・イヤー2014を選定した。

表 2-3 論文賞

<p>日本船舶海洋工学会賞 日本海事協会賞</p> <p>論文名：三宅島近海流況観測とそれに基づく海流エネルギー資源量推定</p> <p>受賞者：清松 啓司 (東京大学), 小平 翼 (ガリウツ大), 門元 之郎 (東京大学), 早稲田卓爾 (東京大学)</p>
<p>日本船舶海洋工学会賞 日本造船工業会賞</p> <p>論文名：Max-Plus代数に基づくツインタンデム建造方式の組立日程計画</p> <p>受賞者：梶原 宏之 (九州大学), 人位 康弘 (大島造船), 中尾 洋一 (大島造船), 岩下 寛彰 (九州大学)</p>
<p>日本船舶海洋工学会賞 日本海事協会賞</p> <p>論文名：限界小翼面積プロペラの研究 ー第1報, 第2報ー</p> <p>受賞者：山崎正三郎 (カガマプロペラ), 石原 泰明 ( " ), 蓮池 伸宏 ( " ), 姫井 弘平 ( " ), 岡崎 全伯 ( " ), 三嶋 孝洋 ( " )</p>
<p>日本船舶海洋工学会賞 日本造船工業会賞</p> <p>論文名：自由航走模型試験のための補助推力装置の開発</p> <p>受賞者：塚田 吉昭 (海技研), 上野 道雄 ( " ), 谷澤 克治 ( " ), 北川 泰士 ( " ), 宮崎 英樹 ( " ), 鈴木 良介 ( " )</p>

表 2-4 船舶海洋技術賞

受賞者：富田 康光 (大阪大学名誉教授)
----------------------

表 2-5 奨励賞(乾賞)

<p>論文名：Anaerobic digestion of marine biomass for practical operation</p> <p>受賞者：黒田 桂菜 (大阪府立大学)</p>
<p>論文名：日本周辺海域における静穏および荒天海象の連続性について</p> <p>受賞者：和田 良太 (東京大学)</p>
<p>論文名：鋼溶接継手における残留応力、靱性分布および溶接開先形状を考慮した三次元脆性き裂伝播経路予測モデル</p> <p>受賞者：中居 寛明 (東京大学)</p>
<p>論文名：浮遊式海流発電装置の電力ケーブル荷重に関する研究</p> <p>受賞者：柴田 昌男 (豊田中央研究所)</p>

表 2-6 開発・発明賞

<p>日本船舶海洋工学会賞</p> <p>題名：「複合材料製船用プロペラの開発」</p> <p>受賞者：山磨 敏夫 (カガマプロペラ), 櫻井 貴哉 (カガマプロペラ), 村山 英晶 (東京大学), 影山 和郎 (東京大学)</p>
--

表 2-7 奨学褒賞 (大学, 大学校)

学校名, 学科名	受賞者
東京大学 工学部システム創成学科 大学院工学系研究科システム創成学専攻 大学院新領域創成科学研究科	上田 航也 小川 大智 志賀 俊成
横浜国立大学 理工学部建築都市・環境系学科 大学院工学府システム統合工学専攻	池増 陽之 狩野 泰秀
東京海洋大学 海洋工学部海事システム工学科 海洋工学部海洋電子機械工学科 海洋工学部流通情報工学科 海洋科学技術研究科海運ソフトウェア専攻	土井 晴貴 土内 裕也 有江 禎晶 佟 俊
神戸大学 海事科学部海事技術マネジメント学科 海事科学部海洋ロジスティクス科学科 海事科学部マリンエンジニアリング学科 海事科学研究科	前田 琢磨 加藤 茉里 玉嶋 久詩 谷本 礼佳
大阪大学工学部 地球総合工学科船舶海洋工学科目 大学院工学研究科地球総合工学専攻	井上 雅 宮崎 俊幸
大阪府立大学工学域機械系学類 海洋システム工学課程 大学院工学研究科航空宇宙海洋系専攻	河尻 義貴 夏目 糧平
東海大学海洋学部 航海工学科海洋機械工学専攻	前島 拓也
広島大学工学部 第四類輸送機器環境工学プログラム 大学院工学研究科輸送・環境システム専攻	佐藤 拓也 中野 陽平
九州大学工学部地球環境工学科 船舶海洋システム工学コース 大学院工学府海洋システム工学専攻 総合理工学府大気海洋環境システム学専攻	中村 拓登 福光 功希 岡田 雄馬
長崎総合科学大学 工学部船舶工学科 大学院工学研究科生産技術学専攻	大志保 遼 河村 篤
海上保安大学校 本科第一群 本科第二群	池田 孟優 山名 麻由
海技大学校 海上技術コース (航海専修) 海上技術コース (機関)	永井 達朗 館山 透

表 2-8 奨学褒賞 (商船高等専門学校)

学校名	受賞者
弓削商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	渡邊 裕仁 大浅田 悠人
大島商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	渡邊 司 後河内 淳司
富山高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	浦畑 清楓 木下 凌
鳥羽商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	細見 巧 福嶋 駿
広島商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	小田 篤史 西岡 大祐

表 2-9 奨学褒賞 (高等学校)

学校名	受賞者
山口県立下関中央工業高等学校	原田 賢一
高知県立須崎工業高等学校	今西 宏樹
長崎県立長崎工業高等学校	柏原 広紀

平成 27 年 6 月 9 日, 応募作品の発表会と選考会が実施され, 選考委員会において下記作品が各賞に選定された。平成 27 年 7 月 27 日に開催された海事三学会合同表彰式 (海運クラブ) において, 受賞作品の表彰式を行った。

・シップ・オブ・ザ・イヤー2014 : さやえんどう LNG 船  
 ・大型客船部門 : 橘丸  
 ・小型客船部門 : 太古  
 ・大型貨物船部門 : PACIFIC SPIKE  
 ・小型貨物船部門 : ふたば  
 ・漁船・作業線部門 : おしよろ丸  
 また, シップ・オブ・ザ・イヤー制定 25 周年を記念して記念冊子 (電子ブック CD) を制作した。

#### 【9】広報活動

学会活動を広く周知するための広報宣伝活動と, 入会者の増加を図る目的で新しい学会パンフレットを作成した。

#### 【10】創立 120 周年記念事業実行委員会

平成 26 年度の記念事業検討委員会の答申を受けて, 平成 27 年 9 月 18 日に日野孝則副会長を委員長とする実行委員会を組織し, 平成 29 年 5 月に記念式典ほかを行うための 5 つのワーキンググループを結成して記念事業の準備を行った。

#### 【11】ふね遺産制定の検討

歴史的価値のある「ふね」関連遺産を社会に周知し文化的遺産として次世代に伝えるための認定を, 本会の事業として実施するかどうかの検討と同事業の概要について, 検討委員会を編成して検討した結果, 同事業を実施する事を決定した。

#### 【12】支部活動

##### 1. 東部支部

##### (1) 若手研修・意見交換会

若手世代の親睦を深め, 情報共有や問題意識の啓発のため若手研修会を開催した。しまなみ海道エリアにて合宿形式で実施し, 来島海峡海上交通センターや内海造船瀬戸田工場の見学を通じて, 海事産業に関する意見交換を行い, 交流を深めた。

期日: 平成 28 年 3 月 4 日～5 日

場所: 瀬戸内・しまなみ海道エリア, 参加者: 12 名

(来島海峡海上交通センター, 内海造船瀬戸田工場 等)

##### (2) 海事産業へのお誘い

海事産業へ興味を持つ全ての大学生・大学院生を対象とした海事産業へのお誘いを開催した。参加団体による個別説明会, 概要説明パネルの展示を行い, 海事産業の魅力を知ること努めた。

期日: 平成 28 年 2 月 22 日

場所: 東京海洋大学 越中島キャンパス 85 周年記念会館

参加人数: 46 名, 参加団体数: 20 団体

##### (3) 東部支部情報管理委員会

会員等に対する情報提供として、支部ホームページの管理、メールニュース（No.41～42号）の発行を行った。

## 2. 関西支部

### (1) 若手技術者研修会

委員数：村川会長ほか8名

#### 第1回見学および講演

期日：平成27年6月19日 出席者：6名

場所：大阪大学船舶海洋試験水槽および接合科学研究所

#### 第2回見学

期日：平成27年9月18日 出席者：6名

場所：今治造船丸亀事業本部・川崎重工業坂出工場

#### 第3回見学

期日：平成27年10月23日 出席者：6名

場所：サノヤス造船水島製造所・三井造船玉野事業所

#### 第4回見学

期日：平成27年11月27日 出席者：6名

場所：JMU津事業所

#### 第5回見学

期日：平成28年1月27日 出席者：6名

場所：キャタピラー・ジャパン明石事業所

#### 第6回見学

期日：平成28年1月28日 出席者：6名

場所：新日鐵住金広畑製鉄所

### (2) 造船資料保存委員会

委員数：内藤委員長ほか28名

#### 第1回（平成27年7月24日）

場所：神戸大学海事科学部 出席者：21名

#### 第2回（平成27年12月14日）

場所：神戸大学海事科学部 出席者：23名

### (3) 関西シニア海事研究会

総会（平成27年7月19日）

場所：神戸クリスタルホール 出席者：41名

### (4) 支部長賞

支部長賞(2件)を以下のように選定した。

- 1) 著書「環境と海洋—海から見直す地球環境—」

受賞者：細田龍介，山田智貴

2) 地域・社会貢献「海の日」の小学生向け一般公開

受賞者：大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻船舶海洋工学部門

### (5) セミナー・講習会

#### ・見学会

期日：平成28年3月23日 参加者：28名

場所：和田岬砲台と兵庫運河の見学

#### ・海事産業説明会

期日：平成27年12月12日 参加者：207名，21団体

場所：大阪産業創造館

講演：船級協会について（重見利幸氏），洋上風力発電について（北小路結花氏）

### (6) 海岸清掃

期日：平成27年9月27日 参加者：24名

場所：神戸市須磨海岸清掃，須磨区民センター（海洋漂着ゴミの講演会開催）

### (7) 学生会員募集

学生会員勧誘のための学会紹介パンフレットを製作し，学生会員の拡大を図った。

## 3. 西部支部

### (1) 船舶海洋科学技術啓発広報活動奨励賞

第5回西部支部運営委員会にて投票により船舶海洋科学技術啓発広報活動奨励賞を1件選出した。

受賞者：田中義和（広島大学），中島卓司（広島大学）

### (2) 広報編集委員会

回	期日	場所	出席数
第26回	27.5.29	九州大学創造パビリオン	15名
第27回	27.11.5	アクロス福岡	15名

このほか随時，電子メールにより学会誌の企画・編集に関わる審議を行った。

### (4) 電子情報委員会

電子メールにより関連課題の審議を行った。

### (5) 広報活動など

メールマガジン第59号～第64号を配信した。

## III 事務報告

### 【1】 役員

平成27年度定時総会において以下の理事，監事が選任された。また平成27年度第2回定例理事会において理事の職務分担を決定した。

理事（会長）	原 壽	理事（学術国際）	戸田 保幸
理事（副会長）	日野 孝則	理事（財務）	河地 三郎
理事（副会長）	河部 香	理事（企画）	松本 光一郎
理事（副会長）	吉川 孝男	理事（企画）	藤田 均
理事（国際）	佐藤 徹	理事（情報）	吉田 泰三
理事（研究）	谷澤 克治	理事（広報）	滝田 総一郎
理事（学術）	山崎 哲生	監事	衛藤 壽一
理事（編集）	藤本 由紀夫	監事	西村 勝好
理事（庶務）	白木原 浩	監事	木戸川 充彦

### 【2】 会合

#### 1. 定時総会

平成27年度（第120期）日本船舶海洋工学会定時総会を出席者71名（内書面による議決権行使41名，定足数43名）のもとに下記のとおり開催し，平成26年度（第119期）事業報告（報告事項）および収支決算報告，細則の一部変更を審議して可決した。また次期役員

が選任された。

期日：平成27年5月25日 12:50～13:40

場所：神戸国際会議場（神戸市中央区）

議事：

- (1) 平成26年度（第119期）事業報告，決算報告
- (2) 平成27年度（第120期）事業計画，収支予算
- (3) 細則の変更
- (4) 役員を選任

#### 2. 理事会

平成27年度（第120期）第1回定例理事会

日時：平成27年4月28日（火）13:30～17:00

場所：日本船舶海洋工学会 会議室

出席：理事14名，監事2名，事務局1名

欠席：理事1名，監事1名

主要議事：

- (1) 平成26年度事業報告および収支決算報告
- (2) 平成27年度事業計画，収支予算案の修正

平成27年度（第120期）第2回定例理事会

日時：平成27年5月25日（火）15:00～17:30

場所：神戸国際会議場 会議室

出席：理事 15 名， 監事 3 名， 事務局 1 名

欠席：なし

主要議事：

- (1) 会長（代表理事）， 副会長， 業務執行理事の選定
- (2) 内規（論文集投稿規程）の改定

平成 27 年度（第 120 期）第 3 回定例理事会

日時：平成 27 年 7 月 17 日（金） 13:30～17:00

場所：日本船舶海洋工学会 会議室

出席：理事 14 名， 監事 3 名， 事務局 1 名

欠席：理事 1 名

主要議事：

- (1) 創立 120 周年記念事業に関する審議
- (2) 研究委員会の設置に関する審議
- (3) 国際会議への派遣に関する審議

平成 27 年度（第 120 期）第 4 回定例理事会

日時：平成 27 年 9 月 18 日（金） 14:00～17:15

場所：神戸クリスタルタワー 会議室

出席：理事 13 名， 監事 3 名， 事務局 1 名

欠席：理事 2 名

主要議事：

- (1) 追加研究事業に関する審議
- (2) 海外共同研究促進事業に関する審議
- (3) ふね遺産制定検討委員会に関する審議
- (4) 業務執行状況報告

平成 27 年度（第 120 期）第 5 回定例理事会

日時：平成 27 年 11 月 27 日（金） 14:30～17:30

場所：三菱重工業下関造船所 会議室

出席：理事 13 名， 監事 3 名， 事務局 1 名

欠席：理事 2 名

主要議事：

- (1) 大型研究計画マスタープランに関する審議
- (2) 海外共同研究促進事業に関する審議
- (3) 会員データベース更新に関する審議
- (4) 平成 27 年度収支中間報告

平成 27 年度（第 120 期）第 6 回定例理事会

日時：平成 28 年 1 月 22 日（金） 14:00～17:00

場所：日本船舶海洋工学会 会議室

出席：理事 15 名， 監事 2 名， 事務局 1 名

欠席：監事 1 名

主要議事：

- (1) 平成 28 年度（第 121 期）事業計画・予算案の審議
- (2) 創立 120 周年記念事業に関する審議
- (3) 新規研究委員会設置に関する審議
- (4) 終身会員の推薦

平成 27 年度（第 120 期）第 7 回定例理事会

日時：平成 28 年 3 月 18 日（金） 14:00～17:00

場所：中央電気倶楽部 会議室

出席：理事 14 名， 監事 2 名， 事務局 1 名

欠席：理事 1 名， 監事 1 名

主要議事：

- (1) 平成 28 年度（第 121 期）事業計画・予算に関する審議
- (2) ふね遺産制定検討委員会答申に関する審議
- (3) 新規研究委員会設置に関する審議
- (4) 名誉会員・功労会員の推薦

### 【3】会員の異動

#### 1. 会員数推移

平成28年3月31日現在，会員総数は個人会員4,415名，賛助会員145団体，計4,560となった。（表3-1）

表3-1 会員数推移

種別	前期末 (27年3月 31日)	当期末 (28年3月 31日)	減員	増員	増減
正会員	4,201	4,188	69	56	-13
（内名誉会員）	(39)	(36)	3	0	-3
（内功労会員）	(61)	(62)	1	2	1
（内終身会員）	(936)	(899)	49	12	-37
（内シニア会員）	(88)	(88)	12	12	0
（内在外会員）	(98)	(93)	7	2	-5
学生会員	262	225	129	92	-37
賛助会員 特級	17	17	0	0	0
1級	9	9	0	0	0
2級	10	10	0	0	0
3級	112	109	3	0	-3
個人	2	2	0	0	0
合計	4,613	4,560	201	148	-53

#### 2. 功労会員の推薦

平成 27 年 5 月 25 日定時総会にて下記 2 名が功労会員に推薦された。

安東 潤 安川 宏紀

#### 3. 終身会員の推薦

理事会において下記 12 名の終身会員への推薦が承認された。

野中 晃二 中曾根 賢三 北川 源四郎 鈴木 勝雄  
 吉澤 和彦 渡辺 純男 小林 弘明 柑本 尚志  
 山上 順雄 香川 奉實 佐々木 正人 大國 元

#### 【4】委員の委嘱

下記のとおり新たに委員を委嘱した。

##### (1) 論文審査委員会

査読委員：柴沼一樹，井上健裕，陸田秀実

##### (2) 学会誌編集委員会

増田剛秀，山本 匠，中田賢治，森 剛敏，外川智美，穴井陽祐，大隣樹人，黒田桂菜，山口雄嗣，難波康広，井上智文，眞孫悠樹，東 英一，大越茂宏，藤岡弘幸，加藤泰広

##### (3) 国際企画委員会

戸田保幸，深沢塔一

##### (4) 海洋教育推進委員会

木原 一，平林紳一郎，作野裕司

##### (5) 研究企画委員会，分野研究企画部会

大橋訓英，片岡史朗，藪下和樹，吉田尚史，黒岩良太，新原慶弘，井上雄滋，関口偉久，小林康高，工藤由弘，井上 彰，伊達栄二，泉 耕広，神田雅光，西 佳樹，須藤 拓，中谷直樹，国貞泰介，関口 晋，平山隆男，磯野謙一

##### (6) 研究委員会

P-47 船体疲労強度設計法の精密化のための研究委員会：深沢塔一，大沢直樹，後藤浩二，田丸人意，飯島一博，堤成一郎，山本規雄，河邊 寛，田中義照，岡 正義，中村哲也，杉村忠士

P-48 海洋における生態系サービスの評価に関する研究委員会：大塚耕司，北澤大輔，黒田桂菜，佐藤 徹，多田田茂，西 佳樹，平林紳一郎，村井基彦

S-13 海洋再生可能エネルギー水槽実験方法検討委員会：村井基彦，西 佳樹，永田修一，今井康貴，鈴木英之，平林紳一郎，高木 健，居駒知樹，二瓶泰範，経塚雄策，安澤幸隆

S-14 コンテナ船最終強度検討FS委員会：

藤久保昌彦，鈴木克幸，川村恭己，岡田哲男，小川剛孝，山田安

平, 飯島一博, 深沢塔一, 吉川孝男, 柳原大輔, 石橋公也, 板野昌也, 柴沼一樹, 孝岡祐吉, 鈴木英之, 辰巳 晃, 寺田 伸, 豊田昌信, 日野 圭, 福岡哲二, 村瀬知行, 山崎伸也, 山本輝明, 柳井良哉, 米澤孝志

(7) 創立120周年記念事業実行委員会

日野孝則, 河部 香, 吉川孝男, 白木原浩, 松本 光一郎, 藤田均, 滝田総一郎, 多部田茂, 山本規雄, 廣田和義, 藤久保昌彦, 深沢塔一, 西尾 茂, 大槻康明, 篠田岳思, 土井康明

(8) ふね遺産制定検討委員会

茂里一紘, 内藤 林, 平山次清, 新開明二, 小嶋良一, 大和裕幸, 田中義照, 長谷川和彦, 安東 潤

(9) PRADS 2019 日本招致準備委員会

深沢塔一, 岡田哲男, 川村恭己, 谷澤克二, 木戸川充彦, 佐藤 徹, 小林顕太郎

【5】補助金等

当会の諸事業に対する助成として以下の補助金や寄付金を受領した。

(1) 科学研究費補助金

日本学術振興会より 380万円

(2) 業界補助金

1) 一般向け講演会活動費

日本造船工業会より 150万円

2) 世界船舶海洋工学フォーラムの開催支援金

日本海事協会より 400万円

ABS,BV,DNV-GL,LRより 各20万円

3) シンポジウム等の開催支援金

日本海事協会より 450万円

日本造船工業会より 20万円

(3) 寄付金

当会の諸事業に対する寄付金

日本造船工業会より 175万円

その他1団体, 1個人より 計32,500円

【6】関連団体との協力

1) 日本学術会議

日本学術会議が主催する講演会・シンポジウム等を3件共催した。

2) 日本工学会

CPD協議会の運用等に関連して日本工学会の事業に協力した。

また, 事務研究委員会の活動に参画した。

3) 日本造船工業会

造船技術者社会人教育の事業, 技術士資格に関わる講習会等で日本造船工業会と連携を図った。

4) 海事三学会

日本マリンエンジニアリング学会および日本航海学会との連携を目的として会長懇談会等を3回行った。また, 合同表彰式, 技術者支援事業等で連携を図った。

5) 機械系関連学協会

機械系学協会会長懇談会等を通じ, 関連行事の連携を図った。

【7】規則

1) 定時総会において細則の一部改定を決議した。

2) 定例理事会において下記内規の改定を決議した。

・論文集掲載論文投稿規定

・社会貢献賞に関する内規

3) 定例理事会において下記内規の制定を決議した。

・特定個人情報の取扱いに関する基本方針

【8】行政庁への提出

1) 平成27年6月29日付で内閣府に事業報告, 収支決算書を含む下記を提出した。

・平成26年度(第119期)事業報告等に係わる提出書類

2) 平成27年8月4日付で内閣府に下記を提出した。

・平成26年度(第119期)事業報告等に係わる提出書類の修正

2) 平成27年8月4日付で内閣府に下記を提出した。

・役員の変更届

3) 平成28年3月31日付で内閣府に下記を提出した。

・平成28年度(第121期)事業計画

・平成28年度(第121期)収支予算書

・平成28年度資金調達及び設備投資の見込に関する書類

【9】支部会合

1. 東部支部

定時総会

期日:平成27年5月19日

場所:日本海事協会東京支部会議室

出席者:31名

運営委員会

委員数:日野孝則支部長ほか13名

第1回(平成27年5月19日)

場所:日本海事協会東京支部会議室

主要議事:

(1)平成26年度 東部支部事業報告および収支決算報告

(2)平成27年度 東部支部事業計画および予算

(3)東部支部規則の一部改正

第2回(平成27年7月10日)

場所:日本船舶海洋工学会会議室

主要議事:

(1)運営委員および会務委員の役割分担

(2)東部支部ワークショップ(運営委員会提案)の企画

(3)秋季講演会の準備状況

第3回(平成27年9月11日)

場所:日本船舶海洋工学会会議室

主要議事:

(1)創立120周年記念事業実行委員会委員(東部支部選出)

(2)「ふねの日」制定の提案に対する意見聴取について

(3)秋季講演会の準備状況

第4回(平成27年11月12日)

場所:日本船舶海洋工学会会議室

主要議事:

(1)会費未納者(会員資格喪失対象者)への対応

(2)東部支部ワークショップ準備の進捗状況等

(3)「海事産業へのお誘い」の開催日程等

第5回(平成28年1月15日)

場所:日本船舶海洋工学会会議室

主要議事:

(1)平成28年度 東部支部事業計画案・予算案(1次案)

(2)平成27年度会員資格喪失対象者について

第6回(平成28年3月11日)

場所:日本船舶海洋工学会会議室

主要議事:

(1)平成27年度 東部支部会計監査の実施について

(2)平成28年度 東部支部事業計画案・予算案(第2次案)

東部支部会務委員会

委員数:田中義照委員長ほか15名

支部長を補佐し, 支部の運営に関する諸事項を実施した。

第1回(平成27年7月2日)

第2回(平成27年9月4日)

- 第3回(平成27年11月6日)
- 第4回(平成28年1月8日)
- 第5回(平成28年3月4日)

## 2. 関西支部

### 定時総会

期日:平成27年5月18日  
場所:三菱重工業神戸造船所  
出席者:37名(委任状含む)

### 商議員会

委員数:河部支部長ほか54名  
期日:平成28年1月15日  
場所:神戸クリスタルタワー 出席者:28名  
主要議事:

- (1) 平成27年度事業進捗状況
- (2) 平成28年度事業計画(案)・予算(案)
- (3) 支部長賞候補推薦のお願い

### 運営委員会

委員数:河部支部長ほか15名  
第1回(平成27年4月17日)  
場所:中央電気倶楽部 出席者:25名  
主要議事:

- (1) 平成27年度定時総会
- (2) 関西支部業務所掌
- (3) 支部長賞授賞審査委員会
- (4) 平成27年春季講演会

第2回(平成27年5月18日)  
場所:三菱重工業神戸造船所 出席者:19名  
主要議事:

- (1) 支部長賞内規改定
- (2) 平成27・28年度役員・委員長・委員(案)

第3回(平成27年7月10日)  
場所:中央電気倶楽部 出席者:20名  
主要議事:

- (1) 支部長賞内規改定
- (2) 支部長賞授賞審査委員会
- (3) 海岸清掃
- (4) シンポジウム企画案
- (5) 見学会
- (6) KFR jr. の活動と海事産業説明会
- (7) 平成28年秋季講演会の開催場所について

第4回(平成27年9月11日)  
場所:中央電気倶楽部 出席者:19名  
主要議事:

- (1) 支部長賞内規改定
- (2) シンポジウム企画案
- (3) 海事産業説明会
- (4) 新年特別講演会
- (5) 平成28年秋季講演会
- (6) 「ふねの日」あるいは「ふねの週間」

第5回(平成27年11月4日)  
場所:中央電気倶楽部 出席者:17名  
主要議事:

- (1) ふね遺産制定検討委員会への委員の推薦
- (2) 平成27年度中間報告
- (3) 平成28年度事業計画案・予算案
- (4) 海事産業説明会
- (5) 新年特別講演会

第6回(平成27年12月18日)  
場所:中央電気倶楽部 出席者:21名

### 主要議事:

- (1) 平成28年度事業計画案・予算案
- (2) 平成27年度シンポジウム
- (3) 新年特別講演会
- (4) 見学会
- (5) 平成28年秋季講演会

第7回(平成28年1月15日)  
場所:神戸クリスタルタワー 出席者:19名  
主要議事:

- (1) 平成28年度事業計画(案)・予算(案)
- (2) 支部長賞候補推薦のお願い
- (3) 見学会
- (4) シンポジウム
- (5) 関西支部定時総会

第8回(平成28年3月7日)  
場所:中央電気倶楽部 出席者:17名  
主要議事:

- (1) 平成28年度事業計画案・予算案
- (2) 平成28年度支部定時総会
- (3) 支部長賞内規の変更
- (4) 平成28年度若手技術者研修会

### 会務委員会

委員数:箕浦幹事ほか12名  
支部長を補佐し、支部の運営に関する諸事項を実施した。

- 第1回(平成27年4月17日)
- 第2回(平成27年5月18日)
- 第3回(平成27年7月10日)
- 第4回(平成27年9月11日)
- 第5回(平成27年11月4日)
- 第6回(平成27年12月13日)
- 第7回(平成28年1月15日)
- 第8回(平成28年3月7日)

### 授賞審査委員会

委員数:内田委員長ほか7名  
期日:平成27年4月7日  
場所:神戸大学総合学術交流棟 出席者:6名

## 3. 西部支部

### 定時総会

期日:平成27年5月13日  
場所:リファレンス駅東ビル 3F 会議室  
議事:

- (1) 支部役員の承認
- (2) 第10期(平成27年度)事業報告および会計報告
- (3) 第11期(平成28年度)事業計画および予算
- (4) 西部支部内規改定の件
- (5) 授与式

### 西部支部運営委員会

委員数:吉川孝男支部長ほか27名  
第1回(平成27年5月13日)  
場所:リファレンス駅東ビル 3F 会議室  
主要議事:

- (1) 平成27年度予算・事業計画
- (2) 運営委員の業務担当順序に関する内規

第2回(平成27年8月5日)  
場所:アクロス福岡 会議室  
主要議事:

- (1) World NAOE Forum2015進捗報告
- (2) 平成27年度事業計画の詳細について

第3回(平成27年11月13日)

場所：リファレンス駅東ビル 5F 会議室

主要議事：

- (1) 平成 27 年度事業報告（含状況報告・費用報告）
- (2) 平成 28 年度事業計画案
- (3) 担当役割（企画）の件
- (4) 運営委員交代の件

第 4 回（平成 28 年 1 月 8 日）

場所：リファレンス駅東ビル 2F 会議室

主要議事：

- (1) 船舶海洋科学技術啓発広報活動奨励賞 募集
- (2) 平成 28 年度事業計画案

第 5 回（平成 28 年 3 月 9 日）

場所：リファレンス駅東ビル 3F 会議室

主要議事：

- (1) 会員異動まとめ
- (2) 平成 27 年度事業報告・決算報告
- (3) 平成 28 年度西部支部事業計画・予算案
- (4) 船舶海洋科学技術啓発広報活動奨励賞 選考